

# 記録「松風館十勝碑建立」

## 一 松風館十勝碑林除幕式典

この記録編は、碑林建立と保全に関する事実を収録して、後世に残すために編集した。

平成十八年(二〇〇六)二月二日立春 菅茶山生誕日、谷風は冷たいが冬晴れの日、深安郡神辺町西中条山田谷にある松風館跡の一角において、碑林完成祝賀行事が行われた。

福山市との合併を三月一日に控えたあわただしの中、多くの来賓の方々が出席、主催の菅茶山顕彰会は役員総出で対応した。

除幕式は次第に則り、司会・進行は武村理事、神事は中條八幡神社守屋宮司により執り進めた。

神事に先立ち高橋会長と岩川・井上副会長が君推と茶山ゆかりの象山献燈に点灯した。

十六ある石碑は出席者が分担して除幕し、続いて碑文と詩碑の朗読があり、来賓藤井登美子氏が自作の詩を朗読。終りに、玉串奉奠のあと「茶山先生賛歌」を斉唱した。

### 式典次第

- 一 開式の辞
- 二 「象山献燈」へ献燈
- 三 神事
- 四 各建立碑の除幕

- 石碑「松風館十勝」
- 石碑「松風館跡」

### ○松風館十勝名石碑

- ・垂白棚
- ・浸翠池
- ・魚楽梁
- ・娛論亭
- ・迎碧墩
- ・紅於徑
- ・松風館
- ・棟棠橋
- ・鳥語澗
- ・鳴玉橋

### ○詩碑

- ・詩碑「所見(落日殘紅)」
- ・詩碑「松風館即事」
- ・詩碑「河相保之松風館同菅禮卿賦」

### ○詩碑建立協力者石碑

### 五 碑文と詩碑の朗読

- 碑文「河相君推と松風館」
- 詩「所見(落日殘紅)」菅茶山
- 詩「松風館即事」菅茶山
- 詩「河相保之松風館同菅禮卿賦」頼春水
- 六 自作詩朗読 藤井登美子氏
- 七 玉串奉奠
- 八 斉唱「茶山先生賛歌」
- 九 閉会の辞

### 続いての行事

- 一 河相家墓域へ墓参
- 二 祝賀会 於 山田公民館



神事 中條八幡神社宮司



象山献燈へ献燈



除幕 石碑「松風館跡」



除幕 石碑「十勝碑林」



除幕 石碑「紅於徑」「垂白棚」



除幕 石碑「浸翠池」



除幕 石碑「棗棠橋」



除幕 詩碑「河相保之松風館同菅禮卿賦」



除幕 詩碑「所見」



除幕 詩碑「松風館即事」



詩碑朗読 詩「所見」

## 二 松風館十勝碑林祝賀会

平成十八年(二〇〇六)二月二日 除幕式と河相家墓域へ墓参の後、山田公民館で祝賀会が開催された。

冒頭、主催者を代表して菅茶山顕彰会会長高橋孝一氏より挨拶があり、続いて来賓の挨拶があった。

### (一) 高橋孝一会長挨拶 (要旨)

・明日は節分という覚えやすい日に除幕式をすることが出来ました。

・私は二十年ほど前に、この山田谷の菅茶山揮毫の常夜灯「象山献燈」を見ました。側面には「文化丙子年孟春」とあり、約二百年前の正月頃に建立されたものです。裏面には文字が記されていますが、風化して何が書いてあるのか判りませんでした。諸氏の助けで拓本を採ったり文献を調べたりして、やっと読むことができました。いまでも覚えていています。

やはらぐる 光をここにあらわして うつすともしび神もみそなへ

保之

・菅茶山先生が有名になったというのも、河相君推さんというタニマチが後ろに控えていたからでもあり、(笑) 「私たちも君推さんのご恩を菅茶山先生と一緒に顕彰しようじゃないか」ということから、今回の碑林建立になりました。

・君推は屋敷の中に景勝地をつくり、一つ一つに文人墨客が命名・墨書した碑などを造りましたが、今は散逸して現物は「迎碧墩」ただ一つしかありません。我々がもう一遍復元せざるを得ないと考えた次第です。

・そこで顕彰会では松浦正明さんを中心に特別事業を起こし、会員や有志の方々のご支援・協力により十勝碑林を造ることができました。皆様方のご協力で厚くお礼申します。



・碑林という名前は「碑の林」ということですが、日本では聞いたことがなく、我々も初めて知りました。これは日本における「碑林のはしり」といっても良いのではないかと思っています。碑林だ！碑林だ！と推奨してはいかがでしょうか。

### (二) 来賓挨拶

#### ① 神辺町長代理 収入役 北村博之様 (要旨)

まずは碑林建立に武田武美氏・松浦正明氏の多大な貢献があったことに敬意と感謝を表します。あわせて菅茶山顕彰会の皆様のご尽力にお礼申し上げます。碑林が菅茶山と君推の旧蹟を後世に伝え、郷土の地域文化の発展につながることを祈念します。

#### ② 広島県議会議員 松岡宏道様 (要旨)

立派な碑林完成を祝い、皆様方のご尽力と努力に敬意を表し感謝いたします。昨今、地域住民による文化財や歴史に対するボランティア、探求活動が盛んに行われています。福山市合併後、行政と連携してこれをどう進めてゆくかが課題ですが、私も努力します。

#### ③ 神辺町議会議長代理 同副議長 福島博光様 (要旨)

碑林完成をお慶びし、菅茶山顕彰会のご尽力に感謝申し上げます。菅茶山顕彰活動がますます発展されますよう祈念いたします。

#### ④ 乾杯挨拶 一般財団法人義倉理事長 藤原平様 (要旨)

後世に伝わる碑林の完成おめでとございます。碑林は珍しく西安碑林が有名ですが、高橋会長の博学に感心しています。義倉創設者の河相周兵衛は中条河相家の分家筋にあたり、少なからずのご縁を感じています。

「河相君推の霊を弔い、菅茶山顕彰会の発展とご出席者のご多幸を祈念し乾杯します。」

## 三 松風館十勝碑林建立の経緯

本文および前頁「記録一・二」を補足。次頁に当時の「新聞記事」、「菅茶山顕彰会会報」、記録ビデオ「松風館十勝碑林除幕式」などを記載する。

### (一) 背景

昭和六十二年(一九八七)、「菅茶山先生遺芳顕彰会」(現在の菅茶山顕彰会)が、神辺町後援の地域文化団体として発足したのは、「菅茶山没後百六十年祭」の翌年のこと。以降、菅茶山を顕彰する活動が神辺町全体で盛んになり、菅茶山伝記や詩歌などが広く見聞され、茶山詩碑が神辺公民館や各地の寺院などに建立された。この金石文化が碑林建立の源流の一つといえる。

### (二) 発起人

碑林の主碑「松風館十勝」には、正面に菅茶山顕彰会会長高橋孝一氏、裏面には発起人として武田武美氏と松浦正明氏の名が刻まれている。

高橋孝一氏は当時の著書『お山のこんぴらさま〜芦田川水系の常夜灯』の中で山田谷の象山献燈を紹介している。建立祝賀会での挨拶のとおり、顕彰会会長としてこの事業を主導した。

武田武美氏(当時顕彰会理事)は、松風館跡地の一部を所有する近在者で、地元歴史研究者として松風館・君推について詳しく、碑林建立の発案者である。

松浦正明氏は、自宅に茶山詩碑「農功」を建立するなど、詩碑建立のエキスパートであり、当初から碑林建立の実行責任者として奔走した。

### (三) 碑林建立

#### ① 建立の決定

平成十五年(二〇〇三)の「菅茶山生誕二五五年祭」の余韻が残る頃、前述発起人を中心に、碑林建立の企画が始まった。顕彰会役員を始め、神辺町、地元町内会などの賛同・協力も得られることになり、平成十七年に顕彰会の特別事業として建立事業がスタートした。

#### ② 建立場所

松風館跡地の西南角で、東には象山献燈があり、北には土居屋敷跡と河相家墓地がある三差路が選ばれ、土地は小公有地と勝願寺様及び武田武美氏の所有地の一部で、いずれも無償貸与頂いている。

#### ③ 石碑製作

石碑は藤原石材工業(株)(福山市引野町)が製作した。

○「松風館跡」碑 神辺町長佐藤秀毅氏の揮毫。伊予の青石(緑色片岩)

○「松風館十勝」碑 白御影石の四角石柱で、中国から輸入

○「碑林協力者」碑 建立当時の菅茶山顕彰会役員の氏名碑で、赤御影石に会長以下三十名が記されている。

○その他の石碑 風情ある銘石に由緒ある文字が刻されており、見学者の興味を高めるものである。「十勝碑」の文字は「語論亭」を除き、「紙本墨書衝立」を原本に刻印されている。

石碑の材質については次頁のとおり。

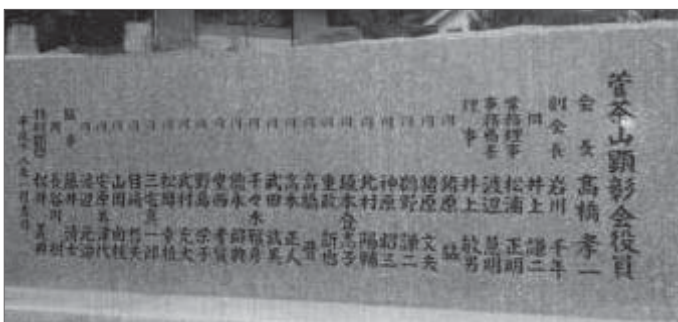
#### ④ 碑林造成工事

藤原石材工業(株)が、敷地造成から建立までの全工事を行った。工事は平成十七年(二〇〇五)十月から始まり、翌年一月に完成した。

#### (四) 事業費

平成十八年二月の決算報告資料には、碑林建立資金は総額約三八〇万円とあるが、詩碑三基は含まれていないと考えられている。

資金内訳は、顕彰会会計のほか、会員協賛金、神辺町寄付、特別個人寄付などである。



碑林建立の報道記事  
中国新聞  
平成 18 年 1 月



碑林除幕式  
DVD ビデオ  
制作 井原放送

(第三種郵便物認可)

## 菅茶山と交友 神辺の豪商 河相邸宅跡地に記念碑

**来月除幕 詩碑など16基を配置**

江戸後期の儒学者菅茶山と交友のあった豪商 人が集い、詩会の場となった旧跡を後世に伝え、河相君推（一七五六―一八一八年）が住んだ神 邊、よと、地元愛好家がつくる菅茶山顕彰会（高 辺町中条の邸宅跡地で、かつての栄華をしの 橋孝一会長）が企画した。二月上旬に除幕式を 念記碑の建立が進んでいる。茶山ら多くの文 明。

（小島正和）

君推は現在の神辺町西 中条で酒造業を営んだ豪 商。漢詩に通じ、町内に 廉塾を開いた茶山と交流 を深めた。敷地約三千平 方呎の邸宅「松風館」に 茶山をはじめ全国の文人 を招き、詩会や酒宴を開 いたという。

松風館の庭園には池、 橋、小山、茶室など十カ 所の「名勝」があり、君 推は訪れた文人にそれぞれ の命名と石碑への揮毫 を依頼した。「松風館十 勝」と名付けられ河相家 の繁栄の象徴となった。 その後に石碑は散逸し、 跡地は今も所有者が複 数の私有地になってい る。

跡地の一部を所有する ライフドア副社長 尾道で19日に講演

ライフドア副社長 尾道で19日に講演

顕彰会の武田武美理事 が、町の歴史の伝承を願 っ て石碑の建立を提案。 松浦正明常務理事が中 心になって寄付金集め などをしてきた。茶山ら が命名した「誤論亭」「浸 翠池」「鳴玉橋」などの 文字を刻んだ十基と、 茶山の詩碑など計十六 基の石碑を制作。三十五 平方呎の敷地に配置す る。

昨年十月から工事を進 め、二月上旬に町関係者 や顕彰会メンバーを集め て除幕式を開く。松浦常 務理事は「中条地区はか つて文化や商業で栄えた 地。茶山や君推の功績を 広く町内外の人に伝える 場になれば」と除幕を心 待ちにしている。

ライフドア副社長 尾道で19日に講演

ライフドア副社長 尾道で19日に講演

### 松風館十勝碑林の石材

	碑銘	種類	備考(石材名など)
十勝碑	1. 松風館	(白)花崗岩	白御影石
	2. 棟棠橋	砂岩	堆積岩
	3. 鳥語澗	安山岩	火成岩
	4. 鳴玉橋	(錆)花崗岩	錆御影石
	5. 迎碧墩	安山岩	
	6. 浸翠池	安山岩	
	7. 紅於徑	安山岩	
	8. 魚樂梁	(白)花崗岩	白御影石
	9. 垂白棚	玄武岩	火成岩
	10. 誤論亭	上部:花崗斑岩 下部:(白)花崗岩	嵌め石:片麻岩
詩碑	1. 所見	斑糲岩	黒御影石 輸入
	2. 松風館即事	オニックス大理石 (結晶質石灰岩)	嵌め石:斑糲岩
	3. 頼春水詩碑	閃緑岩	青御影石

(1) 菅茶山顕彰会会報 第16号

松風館十勝碑林

菅茶山顕彰会会報

第16号  
第16号  
菅茶山顕彰会  
2006年2月28日

「松風館十勝碑林」建立に寄せて  
高橋孝一

河相君推と松風館  
河相君推、実名は保之、備中後月郡井原村の産で西中 条山田谷に居住した。富豪にして書画を蔵し和歌を嗜む 菅茶山と姻戚の關係があり遠祖は源氏佐々木氏である。 酒造業を営み数回蔵した屋宅を構え松風館と名付 けた。菅茶山は黄葉夕陽村舎に立ち寄った天下の有名人 士を伴い訪れて屢々詩会を催した。 君推は酒宴の席で心から敬慕した。松風館十勝の名は これらの人々によって命名揮毫されたものが多い。 (松風館十勝碑)の撰文より)

※河相君推(宝暦六年(一七三六)文政元年(一八二〇) 漢詩人茶山について、儒者尾田朋斎をして「君君、詩を以 て世に開る」と言わしめたように、当時の著名な儒者たちの 金石文が、このように神辺の地にたまらざれた意義は大い。 昨年、この史跡を顕彰するため、松風館記念碑建立を発起 したところ、顕彰会役員ならびに有志の方の格別のご理解と ご協賛をいただき、今回、ゆかりの地に、三基の松風館関係 碑と十基の十勝碑、三基の詩碑が建立されました。そして、 この庭園を中国の「西安碑林」に倣って、「松風館十勝碑林」と命名しました。

ご協力、「尽力」いただいた関係各位に、深く敬意と感謝の 意を表するとともに、この「碑林」が茶山文化を継ぐよすが となり、福山市との合併記念として、神辺の新たな史跡名所 となることを願うものです。(菅茶山顕彰会 会長)

## 四 松風館十勝碑林建立十五周年記念事業

菅茶山顕彰会が碑林を建立してから十五年余りが経過した。菅茶山ゆかりの「河相君推と松風館」を碑林として具象化した先輩諸氏の意図を継承し、令和二年度から「碑林建立十五周年記念事業」に取り組む。

これらの事業により、この碑林が史跡名所として、より多くの人々に訪れてもらい、中條村を舞台にした茶山と君推や文人達の交遊を知っていただきたい。さらには、この活動が中条地区の「地域おこし」の一助となれば幸甚である。

### 一 主な周辺整備

- ① 駐車場の新設
- ② 説明板・案内板の設置
- ③ 植樹 枝垂れ梅、枝垂れ桜など
- ④ 環境の整備（溝蓋設置、剪定など）

### 二 資料作成

- ① 記念誌『河相君推と松風館十勝』
- ② 葉『松風館十勝碑林のご案内』



高橋孝一氏記念樹  
枝垂れ桜（イメージ）



記念樹枝垂れ梅



駐車場

説明板

整備後の全景



駐車場新設工事



植木の選定作業



説明板新設

## 松風館十勝碑林

江戸時代後期ここ山田谷に土匠河相家六代目河相君推（名は保々）という農業と造業を生業とする大庄屋がいた。

山田川に隣接する広大な地所に、田屋、酒造場、客殿、松風館などを建て傍らに池を、要所に遊歩道と橋で連る。池、梁、橋、奇岩などを配し、各々に、菅茶山ら著名な文人に命ぜ、書を刻め、石・木柱などに刻み、遺業内とし、松風館十勝と銘称した。

君推は多くの書画類を蒐集、和歌を詠むなどの風流入て茶山とは遠縁、茶山西伴の客人たちを心懸からもてなし、詩画会などを開き地元中条などの郷情や又入仲間の交流を勧め、広く備後、神辺寄、一帯の地域創生の役割を果たした。

平成十八年、本会はここに、主幹、十勝碑並びに茶山、稲香水の詩碑三基を建立し、松風館十勝碑林とした。茶山、君推ゆかりの、衆山黙齋、並びに、河相家墓地、ともども、その雄姿を傳ふよすがにあれば幸いである。

令和三年二月吉日

菅茶山顕彰会

漢詩索引 茶山・君推年表

1785	1784	1783	1782	1778	1775	1773	1766	1757	1748	西暦
天明				安永			明和	宝暦	延享	和暦
5年	4年	3年	2年	7年	4年	2年	3年	7年	5年	年齢
38	37	36	35	31	28	26	19	10	1	茶山
29	28	27	26	22	19	17	10	1		君推
松風館等	中條路/遍照寺	遍照寺	中條路/遍照寺	遍照寺	神辺	京都		中條	神辺	場所
「明河頼千相君推宅即事分得雨字呈西山先生姫井仲 所各中條山聯詠」 （登山待月） ③②	「雪日還自中條」 ④① 「登高同空充上人賦」 ③① 「同道光上人登黄龍山遍照寺分得一字」 ③② 門田氏宣と再婚	「送大空上人之道光上人登野山」 ③① 「七月十六日同道光上人登遍照寺途中」 ②⑨	「九日上寒水寺路上」 ③⑧ 「九日与諸子上寒水寺」 ④① 「松間」 ③⑨ 茶山妻為没	「中秋登遍照寺作」 子蘭 ②⑦ 「中秋登遍照寺作」 子蘭 ②⑦ 「空上人見訪」 ②⑧	「茶山私塾」 「金栗園」 を聞く。 内海氏為と結婚	「次子璐叔姪東遊」 ②⑥ 「次子璐叔姪東遊」 ②⑥ 「琵琶湖韻」 ②⑥	京都遊学（安永九年計六回）	河相君推誕生	菅茶山誕生	「漢詩」 （茶山同行者） 出来事など
							明和一揆			

①  
②  
・  
は記載頁番号

1798	1797	1795	1794	1793	1792	1790	1788	1787	1786	西暦
寛政							天明			和暦
10年	9年	7年	5年	4年	3年	2年	8年	7年	6年	年齢
51	50	48	46	45	44	43	41	40	39	茶山
42	41	39	37	36	35	33	32	31	30	君推
中條路/遍照寺	神辺	松風館	中條路/遍照寺	松風館	神辺	松風館		中條路/遍照寺		場所
「同充國訪子蘭」 ③④ 「黄龙山呈充國」 ③③ 四勝木碑建立	神辺学問所（廉塾）となる 黄葉夕陽村舎郷校となる	「松風館即事」 ②⑩ 「郷塾取立に関する書簡」 藩に提出	「即事」 （晨氣寒林） ④② 「癸丑仲秋十五夜夕既午訪松風館酒間書感」 ①⑨	「河相保之松風館同菅禮卿賦」 春水 ①② 福山藩儒医五人扶持	茶山父樽平没	「齋」 ①⑧ 寛政異学の禁 「十二日中條村河相周治宅分得雷字」 西山拙	「松風館即事」 （詩罷松窓） ①③	松平定信老中筆頭就任	「黄龙山」 ③③ 「同道光上人登黄龍山分得一字」 ③② 「丁屋路上」 ④① 「所見」 （落日殘紅） ④②	「漢詩」 （茶山同行者） 出来事など
							天明一揆			

1811	1810	文化7年以前の作	1809	1807	1805	1804	1802	1801	1800	1799	西暦
文化			文化				享和		寛政		和暦
8年	7年		6年	4年	2年	元年	2年	元年	12年	11年	年齢
64	63		62	60	58	57	55	54	53	52	茶山
55	54	53	51	49	48	46	45	44	43	君推	
松風館	中條路	中條路/松風館	松風館	神辺	松風館	江戸	松風館		京都	中條路	場所
「松風館 二首 頼山陽」 ⑳㉑㉒	「十七夜雨還自中條」 ④④	「次韻小河貞藏中條途中作」 ④③ 「遍照寺」 ③⑦ 「山中示河篁諸子」 ③⑦ 「登黄龍山」 ③⑥ 「次韻大空上人感事」 ③⑥ 「同道光上人登黄龍山分得重字」 ③⑤ 「高見新助書悽然賦此」 ③④ 「偶檢巾箱得亡友藤井蘭水管波子裕松井子璐」	「與業夫諸子訪松風館」 ②① 『福山志料』	神辺大火	石標設置 迎碧墩、浸翠池、紅於徑、垂白棚の	江戸出府（一回目）	娛論亭扁額設置	福山藩儒	茶山弟恥庵京都で客死	「中條歸路次文輔韻」 ④③	「漢詩」 「茶山同行者」 出来事など
<p>頼山陽 在廉塾 文化6年~8年</p>											

1832	1827	1826	1823	1819	1818	1816	1815		1813		1812		西暦
天保	文政				文化								和暦
3年	10年	9年	6年	2年	1年	13年	12年	11年	10年	9年			年齢
	80	79	76	72	71	69	68	67	66	65			茶山
					62	60	59	58	57	56			君推
	神辺	神辺	中條路		松風館/大和	松風館		江戸	神辺	中條路			場所
『黄葉夕陽村舎詩』遺稿	菅茶山没享年八十歳 門田朴斎離縁菅三養子縁組 八十歳祝宴	『花月吟』 妻宣没	『箱田道中』 ④⑦ 『黄葉夕陽村舎詩』後編	『福山藩風俗御問状答書』	『河相君推没享年六十二歳日記』	象山献燈建立（茶山書 君推和歌）	魚樂梁の石標設置 江戸から帰郷	江戸出府（二回目）	恥庵追善詩会 北条霞亭都講となる	『上廣山寺途中作』 ④⑤ 『黄葉夕陽村舎詩』前編 ④⑤		「與佐藤子文同往中條路上口號」 ④④ 「圓通寺同諸子賦」 ④⑤	「漢詩」 「茶山同行者」 出来事など
<p>君推の後継者 河相庄衛門滋之は 安政6年(1859) 没 後継者なく絶家</p>													

## 参考文献

- 『黄葉夕陽村舎詩 復刻版』 児島書店
- 『茶山詩五百首』 島谷真三・北川勇 児島書店
- 『中條菅茶山と西中條 遍照寺編』稿 松井義典氏遺稿
- 『菅茶山と中條』稿 松井義典氏遺稿
- 『松風館十勝』稿 武田武美氏遺稿
- 『黄葉夕陽村舎詩』 栗田 豊 呉孔版印刷有限公司
- 『松風館十勝』 第十八回特別展示 菅茶山記念館
- 『菅茶山 上巻下巻』 富士川英郎 福武書店
- 『福山志料 復刻版』 福山志料刊行会
- 『頼山陽詩集』巻七松風館 頼山陽全書
- 『茶山詩話』(北川勇講演集) 菅茶山先生遺芳顕彰会
- 『菅茶山顕彰会会報 復刻版』 菅茶山顕彰会
- 『神辺町史』 社会教育課神辺町史刊行係
- 石碑「黄龍山遍照寺」 黄龍山遍照寺
- 『菅茶山と遍照寺及大空上人』 猪原薫一 備後史談一卷二号
- 『中秋登遍照寺作』二首 備後史談十卷八号
- 『梨木裕為と和歌』 備後史談十四卷七、八号
- 『深安郡中條村旧蹟探訪記』 猪原薫一 備後史談十六卷七、十号
- 『西中條村誌』 金尾直樹著 備後史談十六卷十号
- 『松風館十勝』 猪原薫一 備後史談十六卷十号
- 『河相氏の出自と系脈』 濱本鶴賓 備後史談十八卷一、三号
- 『菅茶山遺稿』 柏木順子 大平書屋
- 『現代文 菅茶山翁筆のすざび』 菅茶山遺芳顕彰会
- 『西山拙斎』 朝森 要 鴨方町教育委員会
- 『菅茶山とゆかりの人々』 菅茶山記念館
- 『菅茶山ゆかりの拓本展』 菅茶山記念館
- 『菅茶山の詠歌』 菅波 寛 葦陽文化研究会
- 『菅波信道一代記』『日本都市生活史料集成八』 学習研究社
- 『寒水寺縁起』 福山市神辺歴史民俗資料館HP
- 『広山寺縁起』 福山市神辺歴史民俗資料館HP
- 『金毘羅宮』 フリー百科事典ウィキペディア
- 『山本北山』 フリー百科事典ウィキペディア
- 写真・画像等
- 『頼山陽肖像』 『菅茶山と頼家の人々』 菅茶山記念館発行
- 『西山拙斎画像』 『西山拙斎』 鴨方町教育委員会
- 衝立「松風館十勝墨書」 海田町所蔵(千葉家旧蔵資料)
- 『迎碧墩』 『中条の石造物』 中条学区まちづくり推進委員会
- 『松風館十勝推定地図』(本文「仮説松風館十勝」) 園尾俊昭
- 挿入写真撮影 園尾俊昭
- ビデオ『松風館十勝碑林除幕式』 菅茶山顕彰会編

## 終りに

菅茶山顕彰会顧問 上 泰二

先ず初めに、惜しくもこの松風館十勝碑林建立十五周年記念事業完成を待たずして、一昨年相次いで他界された当該碑林建立を発起された高橋孝一会長、武田武美理事、自らの郷土に関わる調査・研究・整理された私家本と諸々の貴重な関係図書コレクションを次世代へ遺された松井義典顧問、本会報編集長・各種記念出版事業編集に尽力された武村充大理事、茶山ポエム絵画展創始に貢献された三宅真一郎理事など、在任中のご貢献に深甚なる謝意を表し、衷心より哀悼の意を捧げるとともに、この一編を各位の尊い御魂に献げると同時に、碑林敷地を無償で提供していただいた勝願寺並びに武田武美ご遺族のご英断にも感謝の誠を捧げたい。

去年は当該碑林建立十五周年に当たり、記念冊子『河相君推と松風館十勝』の発刊を企画し、山田谷一带に十勝を配した松風館主河相君推と天下の文人墨客を随伴、時を忘れ、足繁く中条路を往来した茶山の足跡を辿りながら、当時の地元中條村の文人たちの活き活きした文化活動をも掘り起こす作業に挑戦した。

最終決定稿に至る工程の中で、『備後史談』を原点到、武田武美氏作成の「松風館十勝(稿)」「十勝配置推定地図(考証)」や、茶山関連の詩碑を網羅した『菅茶山の面影を訪ねて』(二〇〇四年)を執筆の松浦正明理事など数多の先達の道標をよすがに、編集委員がそれぞれに漢和辞典を片手に、『黄葉夕陽村舎詩』や『茶山詩話』などの文献と首っ引き、パソコンのIMEパッドで旧漢字検索、若しくは、「矢立と詩囊」ならぬ「カメラ&スマホ」を携えた取材行脚など。

菅茶山顕彰会よ！不滅であれ！を合言葉に

さらには、コロナ禍により編集作業は幾度も延期を余儀なくされ、やっと発行に漕ぎつけることができた。この冊子が地元神辺・中条の「温故創新」になればとの希いをこめ、今回の特別プロジェクトは完了した。

さて、コロナウイルス感染症パンデミック下、「外来語」ならぬ「外頼語」(此々呂和人提唱)が氾濫、日本語は崩壊の一途を辿り、その余波をもろに受け、日本語のルーツ漢文・漢詩文は、敗戦時に次ぐ二度目の存亡危機を迎えていると言っても過言ではない。

こうした現況下、本会は令和元年度から、会員の高齢化、漸減化を食い止め次世代へ繋ぐため、「茶山詩を通じて茶山を学ぶ」参加・体験型の「茶山学習会」を継続開催するなどして往時の復活に努めている。残念ながら漢詩文に長けた人材に乏しくこれまで、諸先輩が出版された書籍を参考に会員が学習発表するという形態で挑戦している。

更に、本会が「茶山文化」の担い手として顕彰活動を続けるためには、多世代からの入会により本会継承基盤をつくり、現新会員が力を合わせて、伝統行事の活性化、新規プロジェクトへの取り組みむことが大切と考えている。

読者各位には、本会へのご支援ご協力をお願いしたい。

末筆ながら、常日頃、本会の出版事業、更には本誌編集に関わって貴重な資料提供していただいた菅茶山記念館、揺るぎない史実考証に裏打ちされたご懇篤な教示を頂いた古文書研究家林多恵子氏など関係者各位に衷心より謝意を表して結びとしたい。

令和四年一月吉日

松風館十勝碑林建立十五周年記念事業

「河相君推と松風館十勝」編集委員会

委員長 藤田 卓三

主筆 黒瀬 道隆

委員 上 泰二

委員 鶴野 謙二

委員 皿海 弘雄

委員 武田 恂治

委員 松岡 明美

写真 園尾 俊昭

「河相君推と松風館十勝」

～菅茶山と中條村の文人たち～

編集発行 菅茶山顕彰会

事務局 武田 恂治

連絡メールアドレス

info@chazan/click

ホームページ「菅茶山新報」

<http://www.chazan.click/>

発行日 令和四年一月吉日

印刷 社会福祉法人 一れつ会 ウイズ

福山市加茂町上加茂八〇五―一  
電話（〇八四）九七二―八六八六

